



本日は、プログラミングイベントをご受講くださりありがとうございます。

ご自宅で続きを学習するには

本日使用した生徒用アカウントは、 月 日まで そのままご利用いただけます。お子様が試行錯誤した形跡や、完成した作品をぜひご家族で一緒に楽しみながら動かしてみてください。「どうやって作ったの？」という問いかけが、きっとお子様の自信に繋がると思います。

(詳細は、配布資料「おうちでもお試しいただけます！」をご参照ください。ご不明点はお気軽にお問合せください。)

本日の教材でお子さまに楽しみながら学んでほしいこと

～仕組みを考えるきっかけに「ブラックボックス」から「ロジカルな世界」へ～

お子さまにとって、身の回りのテクノロジーは「魔法」のように勝手に動くものに見えがちです。自動ドア、スマホ決済、そして今話題の生成 AI も、一見すると中身がわからない「ブラックボックス」です。

しかし、その中身はすべて「人間の意図した手順 (アルゴリズム)」で動いています。本日のワークショップでは、以下の「3つの力」を育むきっかけを狙いとしています。

1. **プログラミング的思考 (論理的解決)** 「コンピュータにやってほしいこと」を分解し、「コンピュータがわかる言葉」で「順番に」記述する。この「筋道を立てて考える姿勢」は、プログラミングだけでなく、課題を解決する時にも必要な一生もののスキルです。
2. **適切な条件を見極め、解決する力 (規則性の発見)** 身の回りの便利な機能も、実は「何かが起きたら、こう動く」という仕組みや一連のルールを組み合わせてできています。このパターンを見極める力を養うことは、情報を整理し、最適解を導き出す力の基礎となります。
3. **自分の考えを形にする力 (表現力・創造性・伝達力)** 単なる受け手 (消費者) から、何かを生み出す側 (創造者) への第一歩となる力です。自分なりの工夫やアイデアによる **クリエイティブな試行錯誤**こそが学びの本質です。AI 時代において「AI を使いこなす側」に立つために最も必要なのは、「**自分の創造的なアイデアを、整理して相手に伝える力**」です。本日の制作は、楽しみながら感性と論理を掛け合わせるトレーニングを目指しました。

まずは日常の中にある「仕組み」に興味を持ち、「これはどんな命令で動いているのだろう？」と一緒に考えることから始めていただければ幸いです。

*使用許諾範囲とご注意点

当スクールの教材すべて (プリント教材、電子データ教材、プログラムファイルなど含むがこれに限らない) は ご受講者であるお子さま個人の学習用途にのみご利用いただけます。著作権は当スクールに帰属しており、複製、流用、転載、転売などすることを固く禁じています。

作品を遠方のご親戚やお友達にもみてほしい場合、パソコンの画面をスマホなどで撮影して SNS 等で公開いただくことは問題ありません。お子様の頑張りをぜひシェアしてさしあげてください。